

所 報

1. 研究室活動報告

(1974年4月—1975年3月)

A. 教育哲学研究室

a. 教育哲学

日高第四郎教授（客員教授）

1972年度に引き続き大学院において、日本の教育行政に関する講義を担当した。

小島軍造教授（客員教授）

健康を害し、自宅にて療養中。

金子武蔵教授（大学院教授）

1972年度に引き続き大学院において、西洋近代思想の講義および演習(ヘーゲル)を担当した。

著書・論文・その他

1. 『道徳の本質』（長野県道徳教育学会、1973年）
2. 『ヘーゲルの精神現象学』（以文社、1973年）
3. 『カントの純粹理性批判』（以文社、1973年）
4. 『歴史』（理想社、1973年）
5. ヘーゲル『精神の現象学』上巻（改訳第6版、岩波書店、1974年）
6. ヘーゲル『政治論文集』上・下（新版、岩波書店、1974年）
7. 『人格』（理想社、1974年）
8. 「ホセア」（『こころ』生成会、1974年5月～10月）

讃岐和家教授

1973年度はヘーゲルの教育思想の研究を行ない、1974年度は実存主義の教育思想の研究を行なった。この間の論文、学会報告等は下記の通りである。

I 論 文

「私大にみる一般教育」IDE 1974年2—3月号

「教育と実存」実存主義1974年12月

「高等教育の大衆化と大学の使命」教育学術新聞、1975年1月

II 学 会 報 告

「ヘーゲルにおける教養の概念について」日本倫理学会第24回大会（1973年10月13日、於・秋田大学）

「高等教育の大衆化と大学の使命」教育哲学会第17回大会（1974年10月5日、於

・ I C U)

Ⅲ そ の 他

1973年度、1974年度とも1972年度にひき続いて、民主教育協会主催の「学生生活研究セミナー」の実行委員をつとめた。

また、1974年12月17日、NHK 学校放送、「人間とは何か」シリーズにおいて「プラグマティズムの真理観」の放送を行なった。

川瀬準一郎準教授

I 研究主題

1. 1973年度

- (1) 理想的人間像とその基盤としての社会層との関連の研究（継続）
- (2) 「人格」形成過程における理想的人間像の役割についての研究（Ⅱ-2. 参照）
- (3) 現代アメリカ思想の研究（Ⅱ-3. 参照）

2. 1974年度

- (1) 儒教教育思想と中国の教養人官僚層との関連の研究（Ⅱ-4. 参照）
- (2) E・H・エリクソンのアイデンティティ論の研究（Ⅱ-3. 参照）

3. 現在着手中のもの

- (1) 2-1)の継続研究
- (2) M・ウェーバーのキリスト教論の研究。特に、社会集団形成にあたって、古い共同体からの解放と、新しい共同体の結成という意義を中心として考察。（1975年10月、日本倫理学会第26回大会において発表の予定）
- (3) R・N・ベラーにおける「アメリカの基本価値論」の変容

Ⅱ 学会参加, その他

1. 民主教育協会主催「学生生活研究セミナー」（1973年9月15日-17日、於・富士吉田市）に参加。

2. 日本倫理学会第24回大会（1973年10月13, 14日、於・秋田大学）に出席、共同研究主題「人格」に関して、「人格形成と典型」と題して、M・シェラー、O・F・ボルノウ、E・H・エリクソンの思想の比較検討に関して報告。

3. 文部省科学研究費助成による総合研究「現代アメリカ思想の倫理学的研究」（代表者白田貴郎）に研究分担者として参加、「アメリカの基本価値」についてのR・N・ベラーの研究について報告。

4. 教育哲学会第17回大会（1974年10月5, 6日、於・I C U）に出席、「儒教における人間像」と題して、M・ウェーバーの儒教研究について報告。

5. 日本倫理学会第25回大会（1974年10月18, 19日、於・日本女子大学）に出席。

Ⅲ 公刊論文

「人格形成と典型」日本倫理学会・金子武蔵編『人格』の中。1974年10月、理想社。（Ⅱ-2. 参照）

磯田一雄準教授

共同研究「教授理論史研究」では、ロック ルソーにはじまりパーカー、モンテッソリに至る「活動主義の系譜」を考察している。

国立教育研究所より研究協力委員を委嘱された「教育課程の改善に関する基礎的研究」は第2・3年次に入り、「特別活動」の実態について質問紙および訪問の両方による学校調査を行ない、その結果の一端を1974年9月1日—3日に開催された「日本教育学会第33回大会」（於・広島大学）で、「特別活動の実態に関する調査研究」と題して発表した。（藤田昌士，横山宏〔国研〕，西村誠〔東洋大〕，水内宏〔千葉大〕の諸氏との共同発表）

1974年秋学期より，大学院にて「教育課程及び教授法演習」を開講。

論文（執筆順）

1. 「対立」による「多様な考え」の創造の重視、『現代教育科学』誌，1973年6月号（明治図書）
2. 教授学と生活指導，『教授学研究』第5号（国土社）1975年3月発行予定。
3. 「教師にとって授業とは何か」，「教科書」，「授業」，「教育機器」の各節。（帝国地方行政学会刊行予定の「教育とは何か」叢書第3巻『授業』第2章）印刷中。
4. パーカーにおける「自己活動」概念の一考察（本号所載）

b. キリスト教教育哲学**中川秀恭教授**

大学院において，キリスト教人間学を始めとする講義を担当した。

論文

1. 孤独と絶望のきわみに立つキリスト
聖書と教会 1973年5月
2. 原始キリスト教における黙示思想
理想 1974年3月
3. キリスト教にみる死
大法輪 1974年6月
4. 政治的なメシヤと愛のメシヤ
—遠藤周作氏“イエスの生涯”と“死海のほとり”におけるイエス像—
聖書と教会 1974年11月

c. 教育思想史**長清子教授**

1. 1974年3月24日—27日，日本学術振興会の助成金による国際共同研究「アジアの近代化と人間」の問題をテーマとする日韓比較研究の日本側責任者として，ICUのファカルティら11人と共にソウルに行き，延世大学，ソウル大学，高麗大学，

西江大学等の学者たちと共に共同討議をもった。

2. 1974年5月21日—6月1日、イギリスのマンチェスターのウィリアム・テンプル・カレッジにおける「人間問題研究会」(Humanum Studies)に出席した。マンチェスター大学、サルフォード大学、サセックス大学訪問。

3. 1974年7月28日—8月3日、WCC(世界教会協議会)の「人権問題委員会」に常任委員として出席。

4. 1974年8月5日—19日、西ベルリンにおけるWCCの中央委員会および常任委員会にWCC会長の一人として出席。

5. 1974年9月15日—21日、フィリピンおよび韓国における政治犯釈放の訴えのため、WCCおよびCCA(アジアキリスト教会議)代表のエキュメニカル・チームの一員として両国を訪問、フィリピンのマルコス大統領、韓国の政府関係者らと会議すると共に、両国のキリスト教会の指導者、入獄者の家族たちとの集りに出席し、意見を交換した。(CCAよりの連絡によると、1974年12月13日フィリピンでは大統領の特別指令により600人が釈放された由、そしてその中にはメソヂストの指導者、元フィリピン商科大学長N・ブルーデンテ氏、およびミンダナオの労働運動の弁護士イバラ・マロンゾ氏も含まれていた由である)

6. 1974年10月5、6日、ICUにおいて開催された教育哲学会におけるシンポジウム「日本における教育思想の伝統」に参加し、発題をした。

7. 1974年11月18日—24日、ニューヨークにおいて開催されたUBCHEA(United Board for Christian Higher Education in Asia)の理事会にアジアよりの新任理事の一人として出席し、アジアにおけるキリスト教関係の高等教育の直面する問題、人材交流の課題などにつき討議した。この折、Japan ICU FoundationのWomen's Committeeの集りにも出席。

著書

『背教者の系譜—日本人とキリスト教』(岩波書店、1973年6月23日)

論文

1. 「新渡戸稲造—伝統的価値の革新と戦後民主主義の“根”—」(『日本人とキリスト教』小川圭治編、三省堂、1973年6月15日)

2. 「民芸美の発見と柳宗悦—無銘の李朝陶磁器に触発されて—」(ICU『アジア研究』7、1973年5月)

3. 「アジアの革新とキリスト教—孫文と宮崎滔天—」(ICU『教育研究』17、1974年2月)

4. 「キリスト教と国家」(『政治と宗教』日本学術会議 学問・思想の自由委員会 <真下信一・高橋碩一>編、時事通信社、1974年5月)

d. 比較教育学

Ben C. Duke 教授

下記の書物を刊行した。

Japan's Radical Student Movement: From Poverty Through Affluence, Saturday Review, April, 1974.

Contemporary Research: The Problems of Teaching Children to Read Their Native Language in Japan, England & U. S. A.

B. 教育心理学研究室

1973年4月から74年11月までは、当研究室のフル・メンバーが、教育、研究に従事した。加えて、その間に米国から2人の心理学研究者が滞日された。トロイヤー博士 (Dr. Maurice E. Troyer) は、74年4月から11月まで、シラキュース大学から、招聘教授として来日され、後記の如く多方面に活躍された。ヒギンズ博士 (Dr. Jerry Higgias) は、73年9月から2年間の予定で、カリフォルニア大学日本センター所長兼本学招聘準教授として赴任、「異常心理学」、「精神衛生と適応の心理」などを担当された。

74年12月より都留春夫教授が半年間の予定で休暇をとった。

梅津八三教授

I 研究活動

「言語行動の各種障害事例における構成信号系の構造と機能に関する心理学的研究」(文部省昭和49年度科学研究費補助総合研究)の研究分担者としては、「盲ろう二重障害者班」の一員として、主として国立久里浜養護学校の該当の児童について構成信号系形成の実践研究に参加し、また研究代表者としては、全体の九研究分担班の研究の総合にあたる。

II 著作

「重度・重複障害者の教育のあり方」, 特殊教育 (文部省初等中等教育局特殊教育課編集) 季刊4, 1974年

都留春夫教授

I 研究活動等

I P R研究会, 全日本カウンセリング関係団体連絡協議会, 日本カウンセリング協会, 基督教学校教育同盟関東地区カウンセリング研究会等の活動に参加し, カウンセリングや集団過程の研究をつづける。

また, 国立療養所看護婦, ウルスラ会修道女, 本田技研職員などの現任教育の指導を通してリーダーシップの育成法の現場適用の問題を検討している。

II 著作

「援助と教育」総合看護第9巻, 第1号

星野 命教授

I 研究活動

1) 1972年度に引き続き1973年度も日本学術振興会の研究助成による日米社会言語学共同研究班の一員として，待遇表現の，特に悪態（ののしり表現）の諸相と機能につき調査や考察を行なった。その結果は下記学会などにおいて発表した。

2) 1974年2月より在京の児童心理学および性格心理学の研究者（岡 宏子，白井 常，詫摩武俊の諸教授）とともに，4か年計画で「パーソナリティの発達に関する比較文化的研究——反抗期における自我形成過程と親の態度——」を開始した。毎月2～3回ずつ研究会をもち，まず東京都内の生活保護世帯と給料生活者の家庭における育児の実態を訪問面接と簡便な実験によって調査するべく，質問項目と実験方法の検討などを続けている。対象は，はじめ2歳半より3歳までの乳幼児100名と，その母親とし，暫時，地方の数か所や東南アジアの各都市の乳幼児とその母親に拡げてゆく予定である。

3) IPR（対人関係）研究会主催の感受性訓練グループにトレーナーの一人として，1973年2月6～10日，および，4月21日22日に出席し，参加観察と研究を行なった。

II 学会発表等

1) 1973年6月30日関東社会学会主催シンポジウム「日本人の精神形成」に討論者として参加した。

2) 1973年8月9～11日，麻布国際文化会館において行われた第2回日米社会言語学会議に参加し，‘An Attempt to analyse Japanese Invective Lexemes by Means of the Semantic Differential’を口頭発表した。（これは後に同会議報告書に採録された）

3) 1973年10月6日東京外国語大学アジア・アフリカ研究会主催の「象徴と世界観」の比較研究会議において，悪態の諸相と機能をめぐって，口頭発表を行なった。

4) 1973年10月15～17日福岡教育大学で行われた第15回日本教育心理学会総会に出席した。

5) 同じく10月20・21日に東京渋谷で行われた第14回日本社会心理学大会に出席した。

6) 1973年11月13日に茅ヶ崎福祉会館で行われた「児童相談所心理判定員セミナー」に講師の一人として参加した。

7) 1974年5月22日，ICU日本語科主催研究会において，「マイナス待遇表現——悪態の語彙と機能——」について，口頭発表を行なった。

8) 1974年7月8～15日に福島県岳温泉で行われた‘Inter-cultural Communication Workshop’に研究スタッフの一人として、都留教授とともに参加し、ビデオ装置によるモニター、および評価方法による調査研究に従事した。

9) 1974年10月9～11日に広島大学で行われた第38回日本心理学会に出席し、シンポジウム「親子関係とその発達」および「心理的成長を課題とするグループ・アプローチ」にディスカッサントとして参加した。

10) 同10月12日に広島大学で開催された日本グループ・ダイナミクス学会、第22回大会におけるシンポジウム「コミュニティ・アプローチと集団力学」に指定討論者として参加した。

11) 同11月1～2日に東京・大手町農協ビルで開かれた第28回日本人類学会・日本民族学会連合大会に出席、「ののしり表現の異文化間考察」と題して一般講演(研究発表)を行なった。

12) 1974年12月26日に東京・教育会館で開かれた第12回全国学生相談研修会のシンポジウム「カウンセリングへの実存主義的アプローチ」にディスカッサントの一人として参加した。

以上のほか、日本カウンセリング協会主催の夏季ワークショップ(1973年 於島根県三瓶山, 1974年 於和歌山県日御崎)と、カウンセリング、講習会(通年・東京会場)などには世話人として参加した。また、1973年1月4日より1973年1月29日まで8回にわたって放映されたNHK教育テレビ大学講座「心理学」に講師として参加した。また1973年11月19日より同12月24日まで同様に6回参加した。テーマはそれぞれ「人間の社会的形成」、「動機と感情」および「人格とその基礎」であった。

Ⅲ 著 作

- 1) 「青年期の比較文化的考察の意義と方法」, 津留宏(編): 現代青年心理学講座 2 青年期の比較文化的考察, 第1章, 3—55頁, 金子書房1973. 2.
- 2) 「社会環境の診断」, 村上英治(編): 心理学研究法 12 臨床診断, 第5章, 179—209頁, 東大出版会, 1974. 1.
- 3) 「社会言語学という新分野」, 藤永 保・星野 命(編集・解説): ことばと心理(現代のエスプリ85) 概説Ⅱ, 19—29頁. 至文堂, 1974. 8.
- 4) 「話し手の心理・聞き手の心理」, 児童心理, 27巻12号, 24—34頁. 金子書房, 1973. 12.
- 5) 「家庭における感動の教育」 児童心理, 28巻7号, 107—114頁. 金子書房. 1974. 7.
- 6) 「自己の成長・発展と転機」 児童心理, 29巻2号, 111—119頁. 金子書房. 1975. 2.
- 7) 「甘えの構造再考」 教育と医学 22巻10号, 20—26頁. 慶応通信.
- 8) 「言語社会学への新たな視点」(鈴木孝夫著「ことばと文化」への書評) 三

田評論 第729号, 113—115頁。慶応義塾。1973. 8.

9) 「書評」(藤岡喜愛著「イメージと人間」)サイエンス日本版1975・1号, 112—115頁。日本経済新聞社。

10) 「社会的規範」, 「社会的態度」, 内山喜久雄(監修): 児童臨床心理学事典, 285—286頁。岩崎学術出版, 1974. 2.

11) 「心理測定的検査と投映法との比較」, 「検査場面の諸問題 「反応セットと検査実施者の影響」, 佐治守夫・水島恵一(編): 臨床心理学の基礎知識, 134, 143頁。有斐閣。1974. 11.

古畑和孝教授

I 研究活動

- 1) 1973年度文部省科学研究費補助金(一般研究D)の交付を受け, 「協同一競争と対人態度」に関し, 主として認知的均衡理論の関連で研究を進めた。
- 2) 引続き「道徳性発達の心理学的基礎」の研究会(主任研究者・沢田慶輔東大名誉教授)に参加し, 準拠人・準拠集団との関係での研究を行なった。
- 3) 「均衡理論」研究会はさらに続行し, 1973年, 1974年夏期には合宿読書会を行なった。
- 4) 1973年度は埼玉県入間市教育委員会の依嘱で, 1974年度は杉並区教育委員会・済美教育研究所の依嘱で, 「個と集団」の現場小・中学校教師との研究会で, 指導・助言を行なった。
- 5) 東京大学教育学部・上智大学大学院・お茶の水女子大学大学院などで非常勤講師をつとめた。

II 学会発表等

- 1) 1973年10月(9月29日—10月1日), 日本心理学会, 第37回大会(於・国立教育会館)において, 「協同一競争と対人態度(第3報告)」を口頭発表。その部会の座長。(同大会論文集, 782—783頁所載)
- 2) 1974年9月(25—27日), 日本教育心理学会第16回総会(於・千葉大学)において, 「準拠集団と道徳性の発達(第4報告)(その1—3)」を発表。(同総会論文集, 282—287頁所載)
- 3) 1974年10月(9—11日), 日本心理学会第38回大会(於・広島大学)において, 「協同一競争と対人態度(第4報告)」の連名発表者。(口頭発表者は向井敦子助手)。(同大会論文集, 858—859頁所載)
- 4) 1974年10月(13—14日)日本特殊教育学会第12回大会(於・山梨大学)において, 「障害児(者)に対する社会的態度の変容をめざして」と題するシンポジウムに出席を求められ, 「対人態度の形成・変容の基礎」につき発表。(同大会論文集, 450—452頁所載)。

Ⅲ 著 作

- 1) "Cognitive consistency related to attitudinal aspects of mother-child relations" ICU 学報 I—A「教育研究」, 1973, 17, 63—77.
- 2) (訳著) ニューカム・ターナー・コンヴァース「社会心理学——人間の相互作用の研究」岩波書店, 1973. (676頁)
- 3) 人格の発達——人格形成と社会化を中心として. 藤永 保(編)「児童心理学——現代の発達理論と児童研究」(大学双書). 有斐閣, 1973, 329—388頁.
- 4) 社会的学習と社会化. 斎藤耕二・菊池章夫(編)「社会化の心理学」川島書店, 1974, 31—45頁.
- 5) 社会化; 発達課題; 人生周期; 児童集団に関する諸項目. 東・大山・詫摩・藤永(編)「心理用語の基礎知識」有斐閣, 1973.
- 6) やる気の育つ集団と教育. 「総合教育技術」(小学館), 1973, 28(9), 26—36頁.
- 7) 心理学研究室めぐり, 国際基督教大学. 「教育心理」(日本文化科学社), 1974, 22(2), 66—68頁.
- 8) 学校教育と価値観. 文部省「中等教育資料」(大日本図書), 1974, 23(16)(No. 324), 32—35頁.

原 一雄教授

I 研 究 活 動

- 1) 学習の生理心理学的研究。
 - (a) ヒトの視覚認知における大脳半球の優位性。
 - (b) 赤毛ザルの弁別学習反復逆転学習。
 - (c) 赤毛ザルの視覚弁別学習セットの両眼間転移(京都大学霊長類研究所, 昭和48年度共同研究採択)。
 - (d) 切断脳における学習セットの転移(京都大学本吉良治教授と共同研究, 昭和48・49年度文部省科学研究費「一般」を分担)。
 - (e) スプリット・ブレインにおける視覚情報伝達と反応決定の機構(京都大学霊長類研究所室伏靖子助教授と共同研究, 昭和49年度文部省科学研究費「特定研究・神経科学」を分担)。
- 2) 喫煙の生理・心理学的影響の研究(日本専売公社委託研究の継続)。
- 3) 卒業生によるICU経験の評価(M. E. Troyer, 原喜美両教授との共同調査研究)。
- 4) 大学設置基準に関する総合調査(民主教育協会特別研究班代表・東京工業大学慶伊富長教授らと共同研究)。
- 5) 大学基準協会・学芸学部設置基準分科会委員として「教養学部・学芸学部等基準」修正案の作成に参加。

II 学会発表等

- 1) 1973年4月 たばこ総合研究センター報告会において「疲労回復および認知関に及ぼす喫煙効果の研究」を発表（同所より出版）。
- 2) 1973年7月 日本動物心理学会第33回大会（於・北海道大学）において「分割脳アカゲザルによる反復弁別逆転学習の両眼間転移の研究」を田中正文と共同で発表（動物心理学年報 1973, 23 (2), 94頁に要旨収録）。
- 3) 1973年9月 日本私立大学連盟第4回大学教育問題研究集会（於・名古屋）において「私立大学の任務と限界」について発題（同研究集会資料3頁所載）。
- 4) 1974年3月 たばこ総合研究センター報告会において「ストレスと心的飽和下における喫煙の影響の一考察」を発表（同所より出版）。
- 5) 1974年7月 NHK市民大学講座第15回「住みやすさとは何か（その2）都市と生活」で「環境心理学の立場から」を説明し座談会に参加。
- 6) 1974年8月 国際霊長類学会第5回大会（於・名古屋）へ参加し、西独 Konstanz 大学 Dr. Preilowski と共に次回パリ大会へ備えて Hemispheric Dominance Study Group を組織。
- 7) 1974年8月 高等教育国際シンポジウムにおいて国際交流に関する討論会を司会。
- 8) 1974年10月 日本心理学会第38回大会シンポジウム 6. 環境心理学の問題において「環境心理学研究の方法」を発題（同論文集49—50頁収録）。
- 9) 1974年11月 ICU創立25周年記念・記念シンポジウムにおいて Dr. M. E. Troyer と共に「卒業生によるICU経験の評価」調査を報告。

III 著作

- 1) (With R. E. Myers) "Role of forebrain structures in emotional expression in opossum", *Brain Research*, 1973, 52, 131—144.
- 2) (With C. Corwin) 「The Transcultural Marriage」USNR, Chapel of Hope, Yokosuka, 1973.
- 3) (上野直子共著) 「分割脳アカゲザルによる反復弁別逆転学習の両眼間転移の研究」京都大学霊長類研究所年報1973, 43—44.
- 4) (随筆) 「己を観ること」大学キリスト者 1973, 50, 72—74.
- 5) (書評) K・ゴールドシュタイン著 村上仁・黒丸正四郎訳「生体の機能—心理学と生理学の間」大学キリスト者 1973, 51, 78—80.
- 6) (書評) K. H. Craik "Environmental Psychology", (*Annual Review of Psychology*, 1973, 24, 403—422) 年報社会心理学 1973, 127—129.
- 7) (書評) UN Television's Environment Series "Man builds, Man destroys", 年報社会心理学 1973, 142.

8) “Stimulus characteristics and the interocular transfer of discrimination learning in the forebrain commissurectomized Rhesus monkey” 国際基督教大学「教育研究」1974, 17, 97—101.

9) 「人間科学探求の前提」世界政経 1974, 3 (5), 214—221.

10) (With P. R. Cornwell, J. M. Warren, I. H. Webster) “Posterior extramarginal cortex and visual learning by cats”, *J. comp. physiol. Psychol.*, 1974, 87 (5), 884—904.

11) (随筆)「出題者の真意」IDE (民主教育協会誌) 1975, 154, 37—41.

12) (随筆)「大学入試について考えること」児童心理 (金子書房) 1975, 29 (3), 148—153.

向井敦子助手

学会発表など

1) 1973年10月 日本心理学会第37回大会 (日本大学) において, 古畑和孝教授と連名で「協同一競争と対人態度 (第3報告)」を連名で発表。

2) 1974年9月 日本教育心理学会第16回大会 (千葉大学) において, 古畑和孝教授らと連名で「準拠集団と道德性の発達 (第4報告)」を発表。(その1)は古畑教授。(その2)は向井。(その3)は大学院修士課程の明田芳久が口答発表。

3) 1974年10月 日本心理学会第38回大会 (広島大学) において, 古畑和孝教授と連名で「協同一競争と対人態度 (第4報告)」を口答発表。

Maurice E. Troyer 教授

○1974年4月6日 御夫人同伴で再来日, 楓林荘へ滞在。

○春学期「The University as a Change Agent」のセミナーを大学院で開講。

同時に同講座聴講中の学生と教職員を交えた非公式・公開 Forum を毎週楓林荘で開催。

○5月5日 日曜礼拝において「各人の必要と確信に充分応えるために」と題して説教。

○6月11日 大学礼拝にて「われわれは手段か目的か」と題して説教。

○6月14日 三鷹ロータリー・クラブの招きにより, 篠遠学長の紹介に続いて「21世紀の教育」と題して講演。

○6月29, 30日 八王寺大学セミナー・ハウスにおける第10回大学教員懇話会 (主題: 新らしい大学像を求めて) に参加し, 「社会変革機関としての大学の役割—不可欠な大学自治機構の変革」と題して発題講演を行う。

○7月4日 東京女子大学において一般教育受講生全員に対し, 「未来の高等教育」と題して講演。

○秋学期「Programs and Instruction in Higher Education」のセミナーを教育・行政両大学院の学生に開講。

- 9月10日 大学礼拝にて「自己と他者と神」と題して説教。
- 10月25日 人文科学科・キリスト教文化研究所主催による研究会において「More Globally Oriented Higher Education」を講演。
- 11月2日 ICU創立25周年記念・記念シンポジウムにおいて「卒業生によるICU経験の評価」を講演。
- 11月4日 羽田発帰国の途につく。

Jerry Higgins 招聘準教授

I 研究活動

1. Follow-up of Danish children of schizophrenic mothers.
2. Study of Japanese family dynamics in psychopathology.

II 学会発表等

1. International Christian University Convocation, 1974, May "A Psychologist Looks at International Relations."
2. Institute for Educational Research and Service (ICU), 1975, February "Creativity In- and Out of the Classroom."

III 著作

1. *Genetics, environment and psychopathology.*
Amsterdam: North-Holland, 1974, with Mednick, S. A., Schulsinger, F., & Bell, B.
2. *Psychology: Explorations in behavior and experience.*
New York: Wiley, 1975, with Mednick, S. A., & Kirschenbaum, J.
3. Attitudes underlying reluctance to donate blood.
Transfusion, in press, with Bartel, W. P., & Stelzner, W.

C. 視聴覚教育研究室

当研究室に事務局をおく，日本視聴覚教育学会第11回大会が1974年10月10日から12日の3日間，ICUのN館において日本放送教育学会との連合大会の形で開催され，多数の学会員が出席した。篠遠学長のあいさつがあり，学会会長の布留教授および理事の中野教授がシンポジウムで提案・発表を行ない，渡辺助手，佐賀助手がそれぞれ研究発表を行なった。

1975年4月からは，日本放送教育学会の事務局も当研究室に置かれる予定である。

布留武郎教授

I 研究活動等

1973年6月下旬の1週間

新潟大学人文学部出講，「マスコミュニケーションの心理学」集中講義。

1973年7月下旬—8月上旬

札幌市及び高知市で開催の地域別高等学校放送教育研修会に出講，「学校放送の効果測定法」について講義。

1973年10月

東海大学で開催の日本新聞学会秋季大会において，「メディア暴力と児童の攻撃性について研究発表」金英信，渡辺良連名）。

1974年5月下旬の1週間。

ミュンヘン市にて開催のプリジュネース1974（青少年向け教育テレビ番組国際コンテスト）の審査及びプリジュネース国際諮問委員会シンポジウム参加。

そのあと英国リーズ大学テレビジョン研究センターを訪門，研究情報を交換。

1974年10月

当大学で開催の日本放送教育学会・日本視聴覚教育学会連合大会において，シンポジウム「教育テレビ制作者の立場と利用者の立場」の提案者として参加。

1974年7月以降

放送文化基金財団から「児童の認知スタイルに及ぼすテレビジョンの潜在効果」の研究に関して援助を受け，認知型テストの作成，マスメディア接触と認知型との関係について予備調査を行なったのち，第一次本調査を武蔵野市内及び近郊の公立小学校5年生約500名について，1975年1月下旬から2月下旬にかけて実施した。協同研究者として，渡辺良，佐賀啓男，生田孝至が参加している。

1973年4月—1975年3月現在

日本視聴覚教育学会会長，日本放送教育学会常任理事，日本新聞学会理事，日本教育社会学会評議員，プリジュネース国際諮問委員

中野照海教授

昭和48年12月ユネスコ本部より帰任。

I 研究活動等

Regional Expert Meeting on the Asian Programme of Educational Innovation for Development (25 February 4 March, 1974, Bangkok) に日本代表として参加。

第11回日本視聴覚教育学会年次大会（昭和49年10月11日於ICU）における，シンポジウム「教育工学センターの課題」の発題者として参加。

Asian Promotional Seminar on Educational Technology (3—12 Febru-

ary, 1975, Tokyo) にコーディネイターとして参加。

「日本賞」教育放送番組コンクール (1975年2月20—3月4日, 東京) に審査委員として参加。

教育関係誌に数篇の論文を発表。また, NHK教育放送「世界の教育」(13回シリーズ) ほか, 教育関係番組に出演。全国放送教育研究会連盟第19回大会で基調講演をおこなったほか, 教育工学関係団体, セミナーに出講。

現在, 日本視聴覚教育学会常任理事および編集委員, 日本放送教育学会常任理事, 日本アジア教育改革センター協力委員会委員, NHK放送大学委員会委員, 全放連研究特別委員会委員等。

阿久津喜弘準教授

1 学会活動等

- (1) “Basis for Joint Communication Research among the Asian Christian Commuication/Journalism Institutions.” Asian Christian Communication Educators Conference (July 4—7, 1973, Hong Kong) で発表。
- (2) 日本視聴覚教育学会・日本放送教育学会の連合大会 (1973年10月23—25日, 愛知県委人文化会館) において, シンポジウム「創造性の開発と映像」を司会。
- (3) 日本新聞学会大会 (1974年6月7—8日, 甲南大学) において, シンポジウム分科会「情報環境とマスコミ」で司会, 全体会議で分科会討論内容を報告。
- (4) その他の学会活動: 日本視聴覚教育学会理事および編集委員, 日本教育社会学会研究部長, 日本新聞学会研究委員, 日本社会心理学会編集委員。

II 著作

- (1) 「社会化とマス・コミュニケーション」麻生誠編『教育社会学』(社会学講座第10巻) 東京大学出版会, 1974年, 151—169頁。
- (2) 「マルチ・メディア方式」『現代教育工学』37号, 1974年4月, 31—37頁。
- (3) 「学校広報誌“スポットライト”から」『初等教育資料』307号, 1974年5月, 53—54頁。
- (4) 「視聴覚教育」海後宗臣他監修『教育経営事典』第3巻, 帝国地方行政学会, 1974年, 223—227頁; 「マス・メディア」同第5巻, 237—239頁。

石本菅生助教授

I 研究活動等

- 山梨県教育センター研修会講師 1973年10月18—19日。
- 第9回学習工学セミナー講師 (学習工学研究会) 1974年8月26, 27日。
- 新潟県下越地区視聴覚教育研究会講師 1974年10月8日。

II 訳 書

Ivor K. Davies 著 Management of Learning の邦訳

第3の教育工学「学習指導と意思決定」を昭和50年4月、平凡社から刊行。

D. 理科教育法研究室

原島 鮮教授

I 研究活動

1973年4月1日東京女子大学長に就任し、ICU大学院教育研究科では非常勤講師として奉仕。

International Union of Pure and Applied Physics, International Commission on Physics Education の委員継続。

文部省科研費 特定研究 48年度 #810117 コンピューターを利用した教育の基礎研究とソフトウェアの研究開発(研究費600万円)に従事,特に man-machine dialogue とディスプレイ上の立体視による物理現象の映像化に重点をおく。

1974年3月文部省特定研究46年度91165, 47年度92673, 48年度810117の研究の最終報告を出す。

1975年度には大学院で平田清彦, 篠原文陽児両氏とともに上の研究を引き続き継続している。

三宅 彰教授

1. 統計力学の応用の一例である剛直鎖(stiff chain)の統計を採上げ,鎖の拡がりに関する平均量は鎖の接線方向単位ベクトルの相関関数を用いて求められること,また Kratky—Porod らの虫状モデルを拡張して分子内回転のある場合の連続極限を考えると,従来のように1つの持続長(persistence length)だけでなく,一般には3つの相関長が必要であることを導いた。これは鎖の接線方向単位ベクトルに関する分布間数が拡散定数に異方性を有する場合の拡散方程式にしたがうことを示している。(星野義昭と共著,1974年10月14日,1975年4月5日,日本物理学会講演)

2. 高分子の緩和現象を論ずる際に用いられる教科書的な分子モデルである Rouse—Zimm のモデルの問題点を整理し,特にこのモデルが内部粘性の導入を必要とするか否か,また排除体積効果を取入れることがこのモデルの長所を損うことにならないかなどを検討した。(1974年10月13日高分子討論会講演)

大内謙一教授

ハロゲン置換アセトアミドのプロトン内部化学シフトとC—N束縛回転

第13回NMR討論会1974年9月30日

上の研究発表は,従来から続けてきた核磁気共鳴法によるC—N結合の束縛回転についての研究の一環である。従来の研究の一部は,すでに英国化学会法に発表し

たが、これに関する総合的研究結果がまとまったので、目下、執筆中である。なお、理科教育関係では

大学初年級における自由エネルギー概念の導入について、

ICU教育研究に投稿

高等学校化学教育における Lewis 酸—塩基理論の導入

「化学教育」に投稿予定

これは、1972年卒亀谷進の修士論文の一部である。また化学熱力学 (270頁), 1975年4月広川書店より出版予定である。

Ronald L. Rich 教授

I 研究活動

Continuing development of a completely new scheme of qualitative analysis for most of the metals.

The fixation of nitrogen (partly at Stanford Univ.)

E. 教育社会学研究室

原 喜美教授

教育社会学研究は、従来通り社会学の一部門として、教育学科と協力を保ちつつ行なって来た。1974年4月から75年3月までの1年間の活動の主なものは、次の通りである。

1. 1974年8月19日～24日まで、カナダのトロント大学において、World Congress of Sociology (国際社会学会) が、開催された。1975年が、国際婦人年であるということもあり、かねてから Research Committee on Sex Roles in Society (社会における性役割特別研究委員会) が組織され、筆者もそのメンバーの一員として、加えられていたため、大会に出席し、Status of Japanese Women: Career-mindedness of University Graduates という報告を行なった。この研究部会は終始満員の盛況であり、各国の婦人の活動状況、教育機会、社会的地位などが詳しく報告、討議された。特に Dr. Elise Boulding (1963—64年ICU客員教授 Kenneth Boulding 氏の夫人) が中心になられて、この研究部会が運営されたことを附記しておく。

なおこの大会に引つづき、カナダのモントリオールにおいて、American Sociological Association の大会が開催され、それにも出席した。「社会構造」に焦点がおかれ、変動社会のメカニズムの解明のため、あらゆる角度から分析が試みられた。

2. Dr. Maurice E. Troyer および、原一雄教授に協力して、「ICUの教育的プログラムに対する卒業生の評価」に関する研究を行なった。これはICU創立25周年記念として行なわれたものである。

2. 大学院教育学研究科修士論文

(1973年 修了者)

1973年3月卒業者 15名

A. 教育哲学 (2)

岡田 典夫 ルターにおける人間観形成の基本的課題——Meritum 思想から義認の思想へ——

安原 実 福沢諭吉——啓蒙主義者への転身に至る思惟方法と価値意識の展開に関する研究——

B. 教育心理学

深谷 澄男 自己系の適合過程：その適合的变化と変化抵抗についての一研究

長谷川順子 盲ろう二重障害児の言語行動形成のための初期学習

穴戸美知子 幼児の自発性と親の養育態度

C. 視聴覚教育

清川 英男 リーダビリティ公式の高校英語教科書への適用に関する一考察

新城 岩夫 認知スタイルの学習と教授法への影響に関する一考察

D. 英語教育

堀口 六寿 A Study of Sentence Modifying Adverbs in English

松本 一之 A Study on the "Present Perfect"

大塚 達雄 Two Types of Downgrading Transformation

迫村 純男 On Participial Constructions in English

佐藤(池田)ちゑ子 An Introductory Study of Theme and Comment

山田 洋 Unordered Analysis of English Pronominalization

八代 京子 A Study on Communicative Distance in English and Japanese

E. 理科教育

亀谷 進 高等学校レベルの理科教育におけるカリキュラムの考察と高等学校化学における酸塩基に関する学習指導の現代化のための一提案

1973年6月修了者 4名

A. 教育哲学

立川 明 The Educational Thought of John Dewey in the Late Nineties

B. 視聴覚教育

黄 英 甫 漢字の視覚的効果：一つの実験的研究

金 英 信 テレビ暴力番組と子どもの攻撃的態度に関する一研究

C. 英語教育

府川 謹也 On the Predictability of the Manner and Order of Rule Application

3. 教育実習報告

1974年度教育実習は33名（都の受入れ承認は27名）の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1. 実習生総数 33名

男子 12

女子 21

2. 実習日程

5月7日～20日 熊谷女子高
 6月3日～15日 三鷹一中，三鷹三中
 6月10日～22日 調布三中，都立港工業高
 7月8日～20日 女子学院高，福井市立明道中
 9月9日～21日 私立星野女子高
 9月17日～28日 三鷹高校
 9月24日～10月7日 小金井緑中，小金井二中，三鷹五中
 9月30日～10月13日 小金井東中
 10月7日～19日 三鷹四中
 10月14日～26日 三鷹二中
 11月6日～19日 明星学園

3. 習実協力校

教 科	学 校 名	三鷹高校	三鷹一中	三鷹二中	三鷹三中	三鷹四中	三鷹五中	小金井東中	小金井緑中	小金井二中	調布三中	福井市立明道中	明星学園中	私立星野女子高	都立港工業高	熊谷女子高	女子学院高	合 計
社	会		2	3				1		1								7
理	科		2															2
宗	教																	1
英	語	6	2		3	2	2	2	2		1	1	1	1	1	1	①	25
計		6	6	3	3	2	2	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	35*

(* 社会2名の欠員がでたため，実習生総数と異なる)

4. 学 科 別

学 科	性 別		合 計
	男	女	
人 文 学 科	1	4	5
社 会 "	2	2	4
理 学 科	1	0	1
語 学 科	1	9	10
教 育 学 科	2	3	5
大 学 院	2	2	4
聴 講 生	3	1	4
計	12	21	33

5. 1974年3月卒業生161名中、教育職員免許状を取得した者は34名（社会5，理科3，数学1，宗教1，英語25）、また教員就職状況は下記の通り。

- 市立中学 女子4名（英語）
- 私立高校 男子1名 女子2名（社会，英語）
- 県立高校 男子3名 女子1名（英語，社会）

4. ひ と の う ご き

■新任・就任・辞任

- Jerry Higgins 招聘準教授（教育心理学）：73年9月より着任。
- Maurice E. Troyer 招聘教授（教育心理学）：74年4月から9月迄。
- 本田 栄一助手（非常勤）（教育哲学）：73年4月より着任。
- 下村 啓子助手（非常勤）（教育哲学）：73年4月より着任。
- 高野 栄助手（非常勤）（視聴覚教育）：73年4月より着任。
- 川上千加男助手（非常勤）（視聴覚教育）：73年4月より着任。
- 中川 秀恭教授（キリスト教教育哲学）：74年6月より学務副学長に就任。
74年6月より75年3月迄，大学院部長事務取扱を兼任。
- 星野 命教授（教育心理学）：74年4月より大学院副部長に就任。
- 中野 照海準教授（視聴覚教育）：74年4月より教授に就任。
- 原 喜美準教授（教育社会学）：74年4月より教授に就任。
- 阿久津喜弘助教授（視聴覚教育）：74年4月より準教授に就任。
- 磯田 一雄助教授（教育学）：74年4月より準教授に就任。
- 石本 管生講師（視聴覚教育）：74年4月より助教授に就任。

高野 信子秘書 (A-Vセンター) : 73年4月より着任。

片桐 恵子秘書 (大学院事務室) : 73年4月より着任。

佐賀 啓男助手 (非常勤) (視聴覚教育) : 75年3月退任。

川上千加男助手 (非常勤) (視聴覚教育) : 75年3月退任。

本田 栄一助手 (非常勤) (教育哲学) : 75年3月退任。

■海外出張・帰任・休職

長 清子教授 (教育思想史) : 74年3月24日から27日, 国際共同研究「アジアの近代化と人間」の日韓比較研究の日本側責任者として, 延世大学, ソウル大学, 高麗大学, 西江大学等で共同討議のため, 韓国訪問。

74年5月21日から6月1日, イギリス, マンチェスターのウィリアム・テンプル・カレッジにおける「人間問題研究会」に出席。マンチェスター大学, サルフォード大学, サセックス大学訪問。

74年7月28日から8月3日, 西ベルリン WCC の中央委員会および常任委員会に出席。

74年9月15日から21日, フィリピン, 韓国における政治犯釈放の訴えのため, WCC および CCA (アジアキリスト教会議) 代表のエキュメニカル・チームの一員としてフィリピン, 韓国を訪商。

74年11月18日から24日, ニューヨークで開催された UBCHA の理事会, 及び Japan ICU Foundation の Women's Committee に出席。

布留 武郎教授 (視聴覚教育) : 74年5月末より6月初旬迄, ドイツ, ミュンヘン市で開催された「青少年向教育テレビジョンの国際コンテスト」へ参加, および, イギリス, リーズ大学テレビ研究センター訪問。

中野 照海教授 (視聴覚教育) : UNESCO から73年12月15日帰任。バンコックでおこなわれた。

Regional Experts Meeting on Follow-up of the Recommendations of the Singapore Conference, および Regional Experts meeting on the Asian Programme of Educational Innovation for Development (APEID, 1974年2月25日より, 3月4日まで参加。

阿久津喜弘準教授 (視聴覚教育) : 香港で行われた Asian Communication Educators' Conference に73年7月4日から7日まで参加。

都留 春夫教授 (カウンセリング) : 74年12月より6ヶ月間休暇。